

地 域 再 生 計 画

1 . 地域再生計画の名称

揖斐川の緑と自然に生きるまちづくり計画

2 . 地域再生計画の作成主体の名称

岐阜県、揖斐郡揖斐川町

3 . 地域再生計画の区域

岐阜県揖斐郡揖斐川町の全域

4 . 地域再生計画の目標

揖斐川町は岐阜県の最西端に位置し、平成17年1月31日に1町5村が合併し、揖斐川源流域の全域となる総面積803.68km²と広大な町域となった。

本町の93%を占める山間地域は豊かな森林の中で林産物の生産が行われ、揖斐川流域下流の平坦地域では豊かな田園地帯で農業を主体としている、緑と清流に囲まれた農山村地域である。

本町の人口は昭和30年から40年代初期までは減少時期にあり、昭和43年からは再び増加傾向を示してきたが、平成元年を境に減少傾向になっている。特に山間地域においては減少傾向が著しく、就労の場の不足や交通網の未整備が相まって若年層を中心とした人口流出が続き、農林業の担い手不足で森林の荒廃や手入れ不足の森林の増加が山間地域を中心に問題化している。

山間地域には高齢化率が50%を越える地域があるなど、高齢者が安心して暮らせる地域づくりと、高齢者の持つ豊かな経験と生活の知恵を十分に生かし、就業者のすそ野が広く雇用吸引力が最も高い交流産業や健康産業による地域づくりとを併せ持つ整備を行っていくことが、本町の合併まちづくり計画の大きな柱となっている。また、観光の振興として豊かな自然や伝統文化などの地域資源と徳山ダムなど新たに整備される観光資源を結びつけ、広域観光ルートの整備を進める一方、交流人口の増加を図るうえで観光客が安全で快適に関係施設へアクセスできるよう必要な道路網の整備を行う必要がある。

このため、地域の重要な施策として町道と林道の効率的な整備により、林業振興を行うと同時に山間地と平坦地域の商業地帯との道路ネットワークの構築を図るとともに、本町の将来像である「自然と歴史が育む ふれあいと活力のある健康文化都市」を目指し、揖斐川源流域地域の責任と誇りを持って、人と自然が共生し活力に満ちた健康で文化の薫るまちづくりを推進してゆく。

目標 1 林業振興と林産物の生産拡大

間伐実施面積の 5 % 増加 (うち利用間伐面積の 20 % 増加)

目標 2 道路整備による観光交流施設へのアクセス道の渋滞解消

4 箇所 3 箇所

5 . 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

林産物生産施設のある春日六合地内の町道「榎谷山線」と林道「三倉～上ヶ流線」の開設、改良を一体的に行うほか、林道「木曾屋線」、「品又線」の舗装、林道「新穂～品又線」、「西横山～山の谷線」、「椀戸線」の改良を中心的に整備することにより、林産物の物流効率化を図る。

また、スキー場、温泉等交流施設へのアクセス道の渋滞緩和、通行の安全性確保のため、町道「名倉線」の改良を行う。

町道 榎谷山線 (S6 1 . 3 . 3 1 認定)

町道 名倉線 (S6 2 . 3 . 1 1 認定)

林道 三倉～上ヶ流線 (揖斐川地域森林計画 H16.12.24 岐阜県告示)

林道 木曾屋線 (揖斐川地域森林計画 H16.12.24 岐阜県告示)

林道 品又線 (揖斐川地域森林計画 H16.12.24 岐阜県告示)

林道 新穂～品又線 (揖斐川地域森林計画 H16.12.24 岐阜県告示)

林道 西横山～山の谷線 (揖斐川地域森林計画 H16.12.24 岐阜県告示)

林道 椀戸線 (揖斐川地域森林計画 H16.12.24 岐阜県告示)

5 - 2 法第 4 章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

・事業主体

町道 揖斐川町

林道 岐阜県、揖斐川町

・施設の種類 町道、林道

・事業区域 いずれも揖斐川町

・事業期間

町道 (平成 18 年度～20 年度)

林道 (平成 17 年度～21 年度)

・事業費

総事業費 735,500千円(うち交付金379,415千円)

町道 152,000千円(うち交付金 76,000千円)

林道 583,500千円(うち交付金303,415千円)

・整備量

町道 0.4 km

林道 5.5 km

5 - 3 その他の事業

該当なし

6 . 計画期間

平成17年度～21年度

7 . 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い、状況を把握するとともに、岐阜県及び揖斐川町が連携し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行うこととする。

8 . 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

間伐等の森林保全・整備の推進

森林整備に必要な林道の整備